

有機栽培にこだわり、
農業の大切さを次世代に伝えていく

お米やブルーベリーを栽培する「農園 おりざ」がこだわっているのは有機栽培です。22年前、当時はまだ先進事例の少なかった有機栽培にチャレンジするため、北海道に移住してきた横山さんご夫婦。「農作物の大切さと、農業は人の命を支える尊い仕事だということを知ってほしい」と、さまざまな体験を実施しています。

特に人気なのがブルーベリーの収穫体験です。丁寧に育てられたからこそ生まれるバランスの取れた甘みと酸味に魅了される人が多く、リピーターもたくさん。他にも、飼っている羊の毛を使ったクラフト制作をはじめ、草木染めや糸紡ぎなど、「食」だけではない体験ができるのも特徴です。横山さんは、「ここでしかできない体験を提供して、農業をやってみたいと思ってもらえるきっかけになればうれしい。次の世代を育てる種まきをしていけたら」と話します。

住 所 せたな町瀬畑区東大里72

T E L 0137-87-2716

体験内容 野菜・ブルーベリーの農業体験全般(夏季)、動物の触れ合い(通年)、羊毛を利用したクラフト制作・草木染め・糸紡ぎ(冬季)(すべて要事前予約)



今回お話を伺った横山タミさん。羊のまる子ちゃん和ジュリちゃん、猫のマリーちゃんと一緒に。農園には犬とにわとりもいて、動物と触れ合うこともできます。



▲ブルーベリーの収穫体験は例年7月中旬～8月中旬に実施されています。



▶お米の農業体験では、田んぼの虫の観察なども行い、町の教育プログラムの一環も担っています。



厚沢部町 ASSABU

住所厚沢部町字鶉548 TEL0139-65-6027

住所厚沢部町字鶉977-10
TEL0139-65-6545

新鮮なミルクを使ったジェラートと
酪農の楽しさをせたな町から発信

雄大な自然の中で、のびのび育った牛の搾りたてミルクを使って作られるジェラートやソフトクリーム、ヨーグルト、チーズなどを販売する「ミルク茶房ひそっぷ」。運営するのは丹羽地区の高台に広がる「大津牧場」です。青森県出身の大津さんご夫婦がせたな町で牧場を始めたのは1985年。学生の頃、農業研修で訪れた北海道に惚れこみ、この地にやってきました。現在は搾乳25頭・育成7頭の牛を育てながら、新鮮なミルクのおいしさと酪農の楽しさを、多くの人に伝えています。

毎回10人程度を受け入れる酪農体験では、手作りの紙芝居で牛の一生を説明し、エサやりや仔牛への哺乳、搾乳などを実施。飼っているにわとりやウサギと触れ合ったり、化学肥料を使わない野菜の栽培現場を見学できたりと、たくさんの貴重な体験ができます。2023年夏には民泊(1日1組4人まで)もスタートさせました。「都会の人たちにせたな町の良さを知ってもらって、「田舎生活」を楽しんでもらいたいです」と大津さんは訪れる人たちを笑顔で待っています。

住 所 せたな町北檜山区丹羽369
(ミルク茶房ひそっぷ)

T E L 0137-84-4728

体験内容 酪農体験、動物とのふれあい体験、民泊(すべて要事前予約)

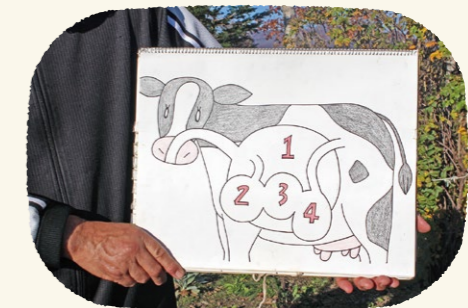
購入可能商品 ジェラート、ソフトクリーム、ヨーグルト、プリン、チーズ(すべて無添加手作り)

厚沢部町 ASSABU

住所厚沢部町字鶉565 TEL0139-65-6020



笑顔でたくさんお話してくれた大津良夫さんと美保子さん。「お客さまとの触れ合いを求めてオープンした「ひそっぷ」に、まずは気軽に遊びに来てくださいね。



◀10年以上大切に使用している紙芝居。イラストは娘さんが描いたそう。



▶ジェラートはミルクの他、自家栽培したピーズなど約10種をラインナップ。

